

医療機器産業の現状と金融支援

医療機器産業は、今後の成長が見込める貴重な分野。だが開発までに超長期を要する医療機器も多く、通常の金融支援では限界もある。どのような取り組みが必要なのか。「中部の医療機器産業—現状と金融支援—」をテーマに、東海財務局の寺田達史局長に連載執筆をお願いした。

(寄稿は7面に)

中部の医療機器産業

現状と金融支援

= 1 =
東海財務局長
寺田 達史



本連載を始めるに当たり、若干の経緯のご説明をさせていただきます。

昨年6月の着任後、企業訪問として東海メディカルプロダクツを訪問させていただき、心臓病に悩む方々のためのバルーンカテーテルの製造現場を見学させていただいた。高度な技術に加え、患者それぞれに専用の器具を生産されること。同社の筒井宣政会長は、心臓の難病でお嬢様を亡くされた。そのため、一人でも多くの心臓病に苦しむ方を助けたいという。私もガンで妻を亡くしている。何かお手伝いしたいが、私は金融庁が長く、金融面の知識しかない。だが開発に超長期を

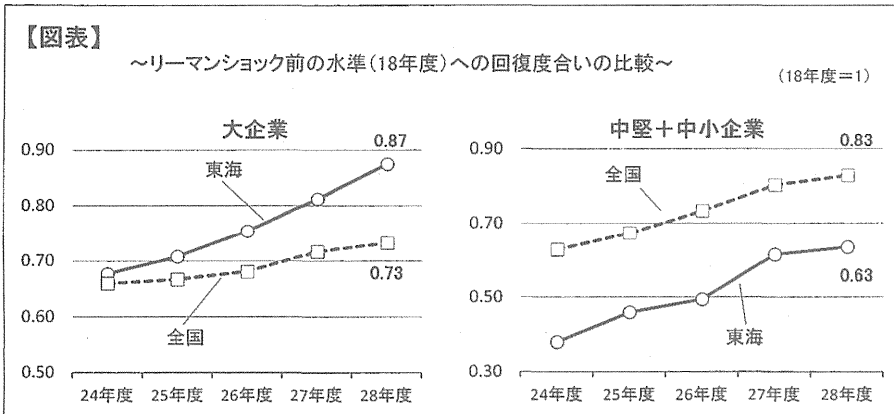
ものづくり中部・中小企業の課題

要したバルーンカテーテルの金融措置のお話しをうかがい、医療機器金融に何かお力添えができないかと申し出たところ、今年から名古屋商工会議所のメディカル・デバイス産業振興協議会のアドバイザーに参加させていただく運びとなった。

もうひとつ、私が愛知の医療機器に問題意識を持ったきっかけがある。それは、昨年10月に行った管内の設備動向調査である。

管内の設備投資の増加額は近年、全国水準を上回り、「東海地区の設備投資は好

生き残り優先、進まぬ設備投資



(出所)財務省及び東海財務局「法人企業統計調査」(同調査結果より当局作成)



<プロフィール> 寺田 達史 1984年大蔵省入省、金融庁などを経て2017年から現職。岐阜市出身。56歳

は、全国水準を相当程度下回っていた(図表)。

この原因については、当地の最大産業である自動車業界をヒアリングした。主要サプライヤーは新型車対応や新製品開発もメーカーと一体となっており、長期的な設備投資を計画的に実施していた。一方、中堅・中小では、完成車メーカーの動向がわからないため、過度に手を広げず、仮にあるメーカーから受注が来なくなっても対応できるよう、競争力を高める投資に限定して生き残りを図る、という厳しい声を認識するに至った。そして、その声の中に、自らの技術力を活かして、医療や航空分野への参入も考えているというものがあつた。

ものづくりの当地にとつて、医療機器への進出を政策的に分析してみようと考えた次第である。